

大津市公共下水道台帳(竣工図)作成要綱

平成26年9月

大津市企業局

目 次

第1 総 則	1
1 目 的	1
2 適用範囲	1
3 用語の定義	1
4 基準	1
5 水準測量	1
6 竣工図等フローチャート	2
第2 管工事	3
1 竣 工 図	3
(1) 竣工図の大きさ	3
(2) 用 紙	3
(3) 記入方法	3
(4) 文字・線	3
(5) 構 成	3
(6) 平 面 図	3
第3 その他	13
1 管等以外に記載が必要なもの	13
2 提出部数	14
(1) 竣 工 図	14
(2) 完成図書調書	14
(3) 付属書類	14
付 則	14
別 表	15

第1 総 則

1 目 的

この要綱は、下水道本管、取付管、人孔、公共汚水枡等の下水道施設築造工事に伴う大津市公共下水道台帳図(竣工図)(以下「竣工図」という。)の円滑な作成を目的とする。

2 適用範囲

この要綱は、工事に伴う竣工図の作成に適用する。

竣工図とは、平面図、詳細図(特殊構造の場合)等をいう。

業務実施のために必要な関係官公庁その他に対する諸手続き及び許可申請については、事業者(工事施工業者)の責任において速やかに行うものとする。

なお、設計図(計画図)の作成についても、この要綱を基本とする。

3 用語の定義

この要綱で用いる用語は、次に定めるところによる。

下水道本管： 管路のうち、主に道路(公道、私道、団地内通路等)に並行して敷設するものをいう。

下水道取付管： 管路のうち、下水道本管から分岐し、敷地内の公共汚水枡までの管をいう。

人孔： マンホールのこと、下水道管内の点検や清掃などのために、人が出入りすることができるように設けられた穴。

公共汚水枡：□ 家庭や事業所で使用された汚れた水を一箇所に集め下水道本管に流し込むための枡。

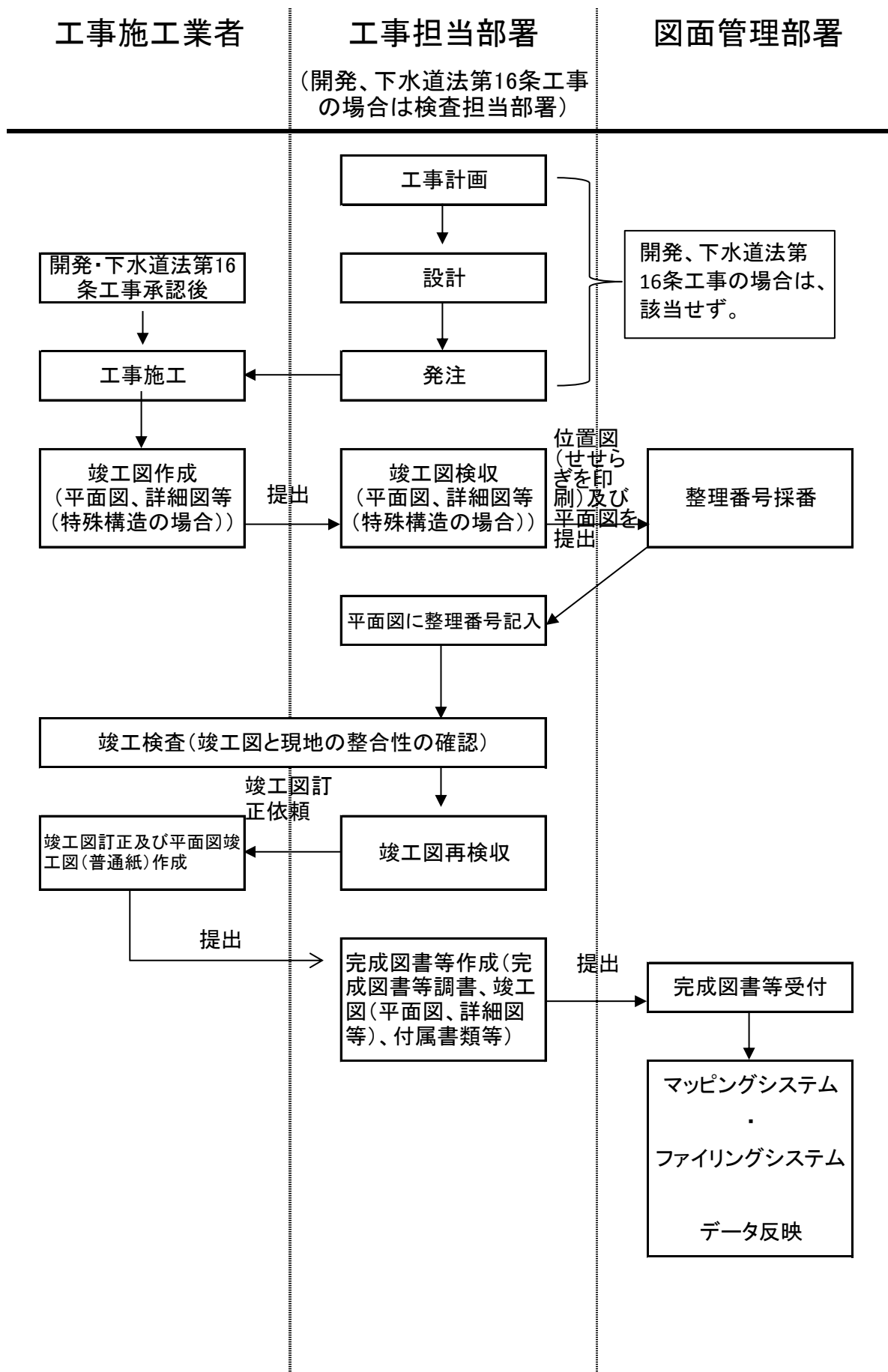
4 基準

本業務の基準は、測量法第11条の規定及び大津市公共測量作業規程(平成22年5月17日付け国土地発第127号)に従うものとし、本業務における高さは、東京湾平均海面を基準にして表示する。

5 水準測量

水準測量は大津市公共測量作業規程第44条にある3級水準測量とする。

6 竣工図等フローチャート



第2 管工事

1 竣工図

(1) 竣工図の大きさ

竣工図に用いる紙の大きさは、A3とする。

(2) 用 紙

竣工図に用いる紙は、普通紙とする。

(3) 記入方法

竣工図作成は、原則としてワープロ、パソコン等で作成し、線や文字にカスレ等が無いようにすると共に、線や文字の濃度を一定にする。

(4) 文字・線

文字・線の大きさは、次による。

文字	大きさ(フォント)
管渠(本管・取付管)情報	8.0pt(約2.8mm)
人孔情報	8.0pt(約2.8mm)
人孔地盤高情報(漢数字)	9.0pt(約3.2mm)
道路・河川の名称	10.00pt(約3.5mm)
住居表示	11.00pt(約3.9mm)

線	太さ
本管・取付管	1.5pt(約0.5mm)
本管・取付管以外の下水道施設	0.5pt(約0.2mm)
※下水道施設以外の線	0.5pt(約0.2mm)

※下水道施設以外・・・道路・河川・家屋・引出線・敷地境界線等

既設下水道施設は一本線の点線で表示する。

例 既設の1号(組立)マンホールと本管の場合



(5) 構 成

竣工図の構成は、平面図、詳細図(特殊構造の場合)等とする。詳細図等の各図面の上部には標題欄を設ける。

(6) 平 面 図

ア 尺 度

(ア) 平面図の尺度は、原則として1/500を使用する。

イ 地 形 図

(ア) 地形図は、原則として大津市が所有する大津市現況平面図又は大津市マッピング現況平面図を使用する。

(イ) 方位は、原則として、北を図面の上方とし、左上隅に必ず記載する。

施工年度等記載欄							
調書総括欄 位置図							

(ウ) 地形図の作成範囲は、工事の起点、終点から各々20m程度まで記載する。

(エ) 地形の表示は、布設道路の境界から各々10m程度の奥行きとし、次表を参考に作成する。

名 称	表 示	名 称	表 示	名 称	表 示
家 屋		コンクリート擁壁		郵便局	
道路側溝		石 垣		墓 地	
歩 道		門		果 樹 園	
河 川		階 段		独 立 樹	
橋 部		官 民 境 界		広葉樹林	
道路の切土部		ブロック塀		針葉樹林	
道路の盛土部		池 ・ 湖		竹 林	
軌 道		学 校		草 地	
鉄 道 (複線)		神 社		水 田	
境 界 線		仏 閣		畑	

(オ) 記載事項

竣工図に表示する下水道施設は、管渠・人孔・取付管・柵(汚水柵・雨水柵)・吐口・伏越・ポンプ場・処理場等とする。

・管渠の種類・位置・形状・大きさ【管径(内径)】、人孔間延長(人孔芯基準)、管渠勾配、管底高、汚水の流下方向

・人孔の種類、位置(オフセット2点)、形状、人孔地盤高、人孔深

・汚水柵及び雨水柵(合流地域のみ)の位置及び種類

・取付管の種類・位置・大きさ・管径(内径)・上流人孔からの追加距離・管渠延長、先端管底高(柵深)及び土被り(管止めのみ)

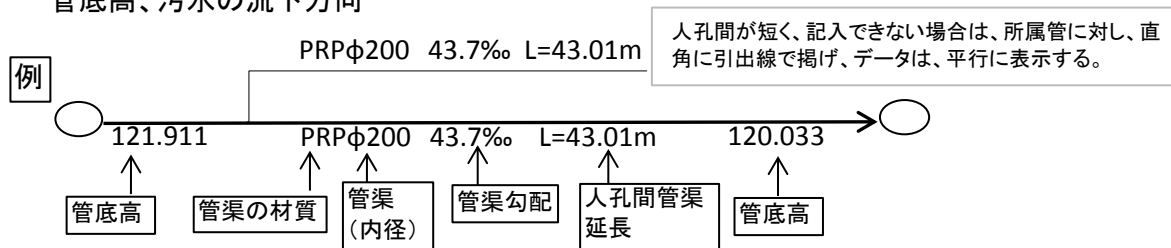
・吐口の位置及び放流先の名称

・伏越の位置、形状、勾配等

A 管渠(本管)

表示事項

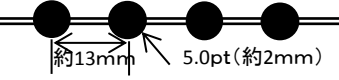
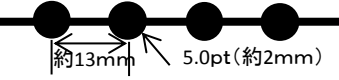
管渠の種類・位置・形状・大きさ【管径(内径)】、人孔間管渠延長(人孔芯基準)、管渠勾配、管底高、汚水の流下方向



a 管渠の種類

種別(材質)	表示記号
遠心力鉄筋コンクリート管	HP
硬質塩化ビニール管(K-1)	VU
強化プラスチック複合管	FRPM
陶管	CP
鋼管	SP
下水道用ダグタイル鑄鉄管(G1)	DCIP
シールド	S
下水道推進工法用鉄筋コンクリート管	SHP
下水道推進工法用硬質塩化ビニール管	VP
ステンレス鋼管	SUS
下水道用リブ付硬質塩化ビニール管(K-13)	PRP
鑄鉄管	CIP
現場打コンクリート	CO
硬質塩化ビニール圧送管(HI)	HIVP
重圧管	JHP
ポリエチレン管(被覆タイプ)	PE
炭素鋼鋼管	SGP
遠心成形高強度パイプカルバート	CSB
塩ビライニング鋼管	JLP
その他	SONOTA
不明	?

b 形状

	管渠機能		表示方法
下水道施設 (幹線路) (圧送管を除く)	幹線		二本線の実線で表示
下水道管 (枝線路) (圧送管を除く)	枝線		一本線の実線で表示
圧送管 (幹線路)	圧送管 (幹線)		左記の特殊線で表示 間隔13mm 5.0pt(約2mm)
圧送管 (枝線路)	圧送管 (枝線)		左記の特殊線で表示 間隔13mm 5.0pt(約2mm)

c 大きさ【管径(内径)】

円形の場合は内径(呼径)。
短径、馬蹄形その他特殊管については、幅及び高さの最大部分を表示するものとする。
【単位はmm。整数値で表示(小数点四捨五入)】

d 人孔間管渠延長(人孔芯基準)

人孔構造物中心間距離で表示する。
【単位はm。小数点第2位まで表示(3位四捨五入)】

e 管渠勾配

人孔内壁管低高低差を管渠延長で割ったものを表示する。
【単位はパーミリ(1/1000)。小数点第1位まで表示(2位四捨五入)】

f 管低高

人孔内壁部における管口高さで表示する。
【単位はm。小数点第3位まで表示(4位四捨五入)】

g 汚水の流下方向

流下方向を示す矢印は、その管渠の最下流に表示する。

h 表記位置

管渠の形状、勾配、延長を示すデータは、その所属管と並行して人孔間に表示し、管底高は、対象人孔箇所に表示する。尚、記入するスペースがない場合には、所属管に対して直角に引出線で掲げ、データは平行に表示する。

i 圧送管について

埋設深さ、位置(オフセット)、配管図(断面図)を表示する。
尚、埋設深さ、オフセットについては、平面的な屈曲部位において表示する。

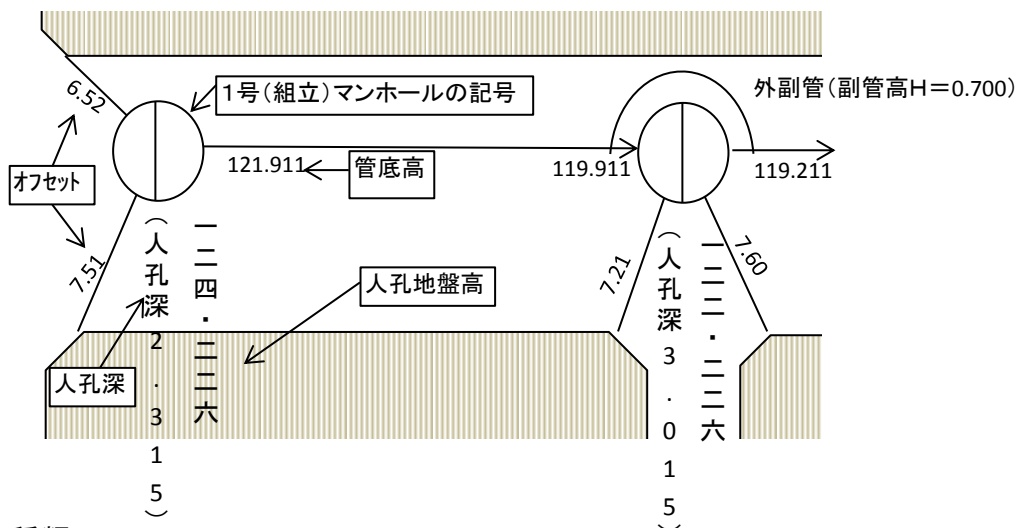
j 下水道設計標準図(管渠編)に構造等の記載のない特殊な管渠については、その構造図・断面図等を詳細図として表示する。(縮尺は問わない)

B 人孔(マンホール)

表示事項

人孔の種類・位置(オフセット2点)・形状、人孔地盤高、人孔深、内副管・外副管の別及び副管高(副管のある場合)

1号(組立)マンホール及び外副管付き1号(組立)マンホールの例)



a 人孔の種類

全て直径3.00mm、1辺3.00mm

種別		記号
Y号マンホール	Y	Ⓨ
0号マンホール	N0	①
1号マンホール	N1	②
2号マンホール	N2	③
3号マンホール	N3	④
4号マンホール	N4	⑤
5号マンホール	N5	⑥
6号マンホール	N6	⑦
7号マンホール	N7	⑧
楕円(組み立て)マンホール(V)	OV	Ⓥ
楕円(底ブロック)マンホール(A)	OA	Ⓐ
小口径(点検)マンホール(150)(塩化ビニール)	T1	Ⓢ
小口径(点検)マンホール(200)(塩化ビニール)	T2	Ⓢ
小口径(点検)マンホール(250)(塩化ビニール)	T3	Ⓢ
小口径(点検)マンホール(300)(塩化ビニール)	T4	Ⓢ

小口径(点検)マンホール(300)(レジコン)	T5	⊙小
小口径(点検)マンホール(350)(塩化ビニール)	T6	⊙小
小口径(点検)マンホールPメカチーズF型	T7	⊙F
人孔代用1号汚水桝(350)	J1	⊙代
人孔代用2号汚水桝(500)	J2	⊙代
点検孔1(200)(強化プラスチック)	A	⊙掃 ₁
点検孔2(300)(強化プラスチック)	B	⊙掃 ₂
点検孔3(300)(コンクリート)	C	⊙掃 ₃
点検孔4(350)(コンクリート)	D	⊙掃 ₄
点検孔5(350)(硬質塩化ビニール)	E	⊙掃 ₅
点検孔6(400)(ポリエチレン)	F	⊙掃 ₆
点検孔7(400)(硬質塩化ビニール)	G	⊙掃 ₇
点検孔8(500)(コンクリート)	H	⊙掃 ₈
点検孔9(500)(材質不明)	I	⊙掃 ₉
点検孔(内径不明)	J	⊙掃 _未
点検孔(450×450)(コンクリート)	K	□点
点検孔10(300)(硬質塩化ビニール)	L	⊙掃
特1号(底ブロック)マンホール	S1	⊙①
特1号マンホール(矩形)	S2	□1
扇形マンホール	S3	⊙扇
特殊マンホール(矩形)	SA	□特
特殊600マンホール(ヒューム管使用)	SB	□特
特殊マンホール(円形)	S	⊙特
雨水吐き室	R	⊙室
吐口	OUT	⊙吐
仕切弁	VA	⊙仕
空気弁	VB	⊙空
逆止弁	VC	⊙逆
ポンプマンホール	MP	⊙中
伏せ越しマンホール	FA	⊙伏

0号(組立)マンホール	K0	
1号(組立)マンホール	K1	
2号(組立)マンホール	K2	
3号(組立)マンホール	K3	
4号(組立)マンホール	K4	
その他マンホール	TA	
仮想マンホール(属性)	XZ	
仮想マンホール(管接合)	XG	
埋設人孔	M	
流域下水マンホール	RM	

同記号で異なる人孔が1図面である場合、例えば、小口径(点検)マンホール(150)(塩化ビニール)と小口径(点検)マンホール(200)(塩化ビニール)などは、同じ記号  であるため、図面に人孔の種類がわかるように記載すること。

b 位置(オフセットを表示)

オフセットは道路境界の両側及び隅部等にある道路プレート等を基準とし、そのプレート等より人孔蓋の中心までの距離を表示する。(道路の側溝の手前なのか奥なのか等、計測位置を明確にすること。)オフセットは2点とること。

【単位はm。小数点第2位まで表示(3位四捨五入)】

c 形状

表で示す人孔種別に対応する記号を実線で表示する。

d 人孔地盤高

人孔蓋中心部の高さを漢数字の縦書きで表示する。

【単位m。小数点第3位まで表示(4位四捨五入)】

e 人孔深

人孔深を人孔地盤高の左横に数字の縦書きで(H=〇.〇〇〇)と表示する。

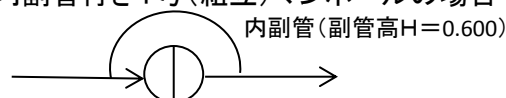
人孔深は、人孔地盤高-下流管底高で計算する。

【単位m。小数点第3位まで表示(4位四捨五入)】

f 副管付き人孔(マンホール)

副管付き人孔(マンホール)は、下記のように記載するとともに、外副管、内副管の別、副管高【単位m。小数点第3位まで表示(4位四捨五入)】を記載する。

例)内副管付き1号(組立)マンホールの場合



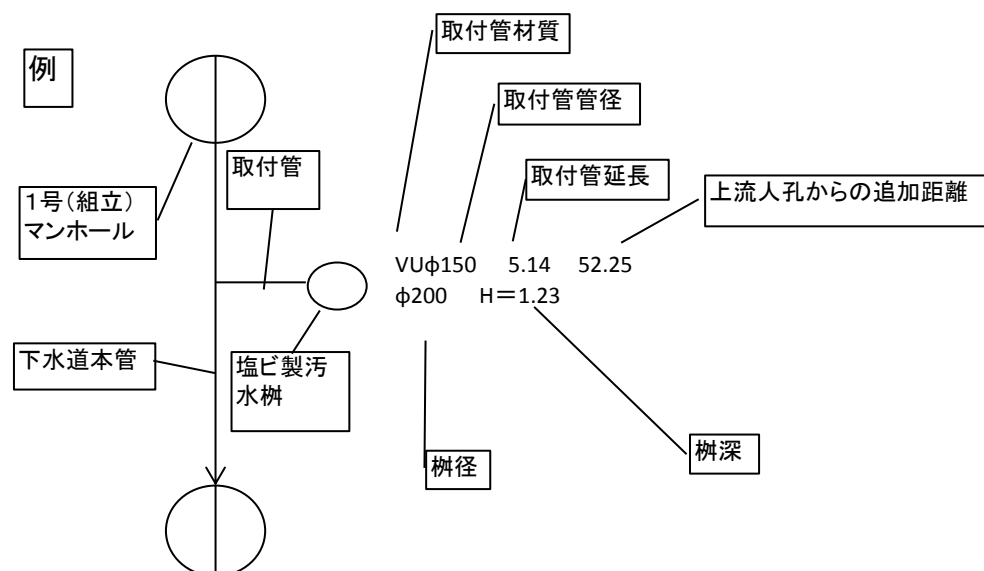
g 特殊人孔

下水道設計標準図(管渠編)に構造等の記載のない特殊人孔については、その構造図・断面図等を詳細図として表示する。(縮尺は問わない)

C 取付管・枡

表示事項

取付管の種類(材質)・位置・大きさ【管径(内径)】・上流人孔からの距離・管渠延長・先端管底高(枡深)及び土被り(管止めのみ)



a 種類

汚水枡、雨枡別に記号で記入する。 全て直径・1辺1.5mm

種別(材質、口径)		記号
塩化ビニール(150)	E1	—○
1号汚水枡(350)	IA	—●
塩化ビニール(200)	E2	—○
合流雨水枡(円形)	U1	—○□
合流雨水枡(四角)	U2	—■
塩化ビニール(250)	E3	—○
2号汚水枡(500)	IB	—◐
塩化ビニール(300)	E4	—○
塩化ビニール(350)	E5	
コンクリート(300)	C1	
コンクリート(400)	C2	

ボールバルブ(仕切弁)	B1	
樹脂製汚水枳(400)	E6	
掃除枳(300)	C3	
バルブBOX	B2	
コンクリート(300×300)	IZ	
バルブ	B3	
管止め	IS	
コンクリート枳	IC	
塩化ビニール枳	IE	
その他の枳	IO	
不明枳	IQ	
宅内ポンプ	IP	

記号の記載のない特殊な種類の枳の表示については、下水道担当職員の指示を受け、記載すること。

b 位置

枳の所属の取付管に平行して表示する。

c 大きさ【管径(内径)】

円形の場合は内径(呼径)を、短径・馬蹄形・その他特殊管については幅及び高さの最大部分を表示するものとする。

【単位はmm。整数値で表示(少数点四捨五入)】

d 上流からの距離と取付管延長

直近上流側人孔からの距離を測定し、その距離(追加距離)と取付管延長で表示する。

なお、人孔取りの場合の追加距離は0.00と表示する。

【単位はm。小数点第2位まで表示(3位四捨五入)】

取付管が管止めの場合は先端部(キャップ止め部)の管低高を表示する。

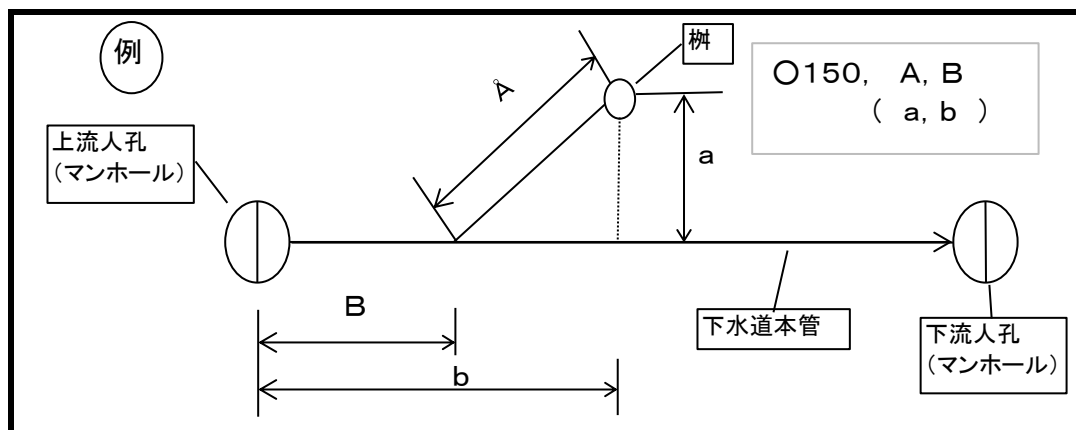
e 枳

枳径及び枳深を表示する。

f 特殊枳

下水道標準図に構造等の記載のない特殊な枳についてはその構造図・断面図等を詳細図として表示する。(縮尺は問わない)

取付管が本管に対し直角接続でない樹の場合は下記のとおり表示する。



※ A ＝取付管延長(斜距離)

B ＝直近上流人孔(人孔芯基準)からの距離

a ＝本管に対し、直角接続であった場合の取付管延長

b ＝本管に対し、直角接続であった場合の直近上流人孔(人孔芯基準)からの距離(水平距離)

D 敷地境界線

a ポンプ施設用地及び下水道管路用地の位置、敷地境界線を表示する。

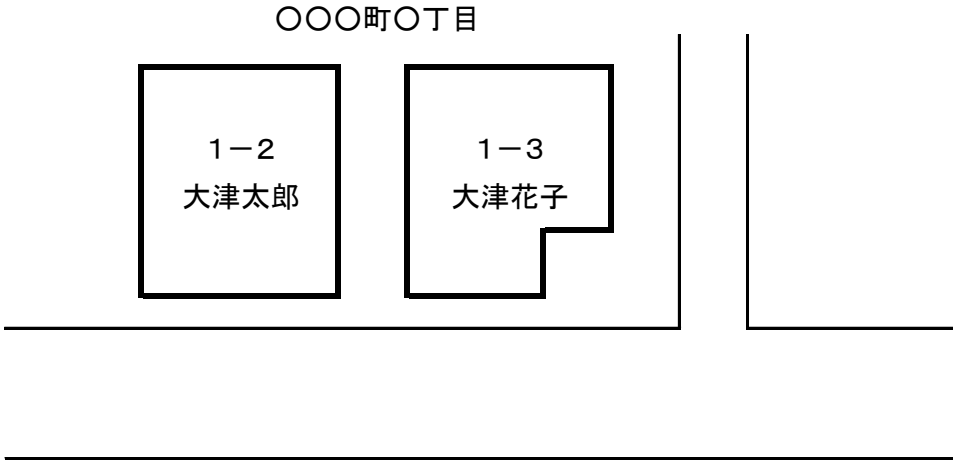
b 付近の道路、河川、農業用排水路及び鉄道等用地の位置と敷地境界線を表示する。

c 国公有地、民地境界を表示する。

第3 その他

1 管等以外に記載が必要なもの

- (1) 道路形態
歩車道区分、道路幅員等
- (2) 主要設備
歩車橋、植樹帯、分離帯、側溝、土地擁壁等
- (3) 道路管理者(路線名)、河川管理者(河川名)
例:市道幹2011号線、国道1号、一級河川瀬田川等
- (4) 特殊構造物
橋梁、トンネル等
- (5) 建物の状況
隣接地に家屋等が存在する場合は、家屋名等を表示する。
- (6) 住居表示及び氏名



- (7) 地形の状況
河川、池、田畑、森林等
- (8) 図面枚数・図面番号・整理番号
図面枚数については、1工事における平面図の枚数及び何枚目かを○／○と記入する。
図面番号(道路台帳番号)については、1工事が大規模で複数の図面にまたがる場合、1工事において最も施工延長が長い図面番号(道路台帳番号)とする。
整理番号については、工事毎に図面管理部署が採番する。

例

図面枚数	図面番号 (道路台帳番号)			整理番号
1／2	116	5	E	12

市域図No.

メッシュNo.

整理番号は、図面管理部署が定める

(9) その他

推進管と補助管(サービス管)など平面的に重なる場合は、2枚以上に分けて台帳を作成する。
平面図上部には施工年度・工事名・工事場所・施工業者・担当者・図面作成・担当・市監督者・図面枚数、図面番号(道路台帳番号)、整理番号(図面管理部署が採番)を記載する。

2 提出部数

- | | | |
|--|--------------|----|
| (1) 竣工図 | 平面図(A3)普通紙 | 1部 |
| | 詳細図(特殊構造の場合) | 1部 |
| 【工事を請け負った業者が作成し、市の工事担当部署に提出】 | | |
| (2) 完成図書等調書 | | 1部 |
| 【市工事担当部署の職員(開発工事及び下水道法第16条工事の場合は検査担当部署の職員)が作成】 | | |
| (3) 付属書類(土地使用承諾書、顛末書等) | | 1部 |
| 【市工事担当部署の職員(開発工事及び下水道法第16条工事の場合は検査担当部署の職員)が準備】 | | |

上記(1)、(2)、(3)の書類を市工事担当部署の職員が、図面管理部署へ提出

付 則

- 1 この要綱は、平成26年9月1日から施行する。

(別表)

施工年度	工事完了年度を表示する(例:平成〇〇年度) 例1:開発は、完了公告の翌日が属する年度を記載。 例2:16条工事は合格日が属する年度を記載。 例3:市工事で、平成26年度予算であるが、翌年度に繰り越し、工事が完了した場合「平成26年度繰(平成27年度完工)」と記載する。
工事名	工事名称(工事でない場合は委託名等)を記入する (例:〇〇(第〇工区)管渠築造工事、〇〇不動産(株)による都市計画法に基づく開発工事、〇〇産業(株)による下水道法第16条工事)
工事場所	工事場所(工事でない場合は委託・調査場所)を記入する (例:大津市御陵町)
施工業者	下水道工事施工業者(工事ではない場合は委託・調査業者名)を記入する (例:〇△建設(株))
担当	下水道工事施工業者(工事ではない場合は委託・調査業者名)の担当者名を記入する
図面作成	下水道台帳作成業者名を記入する(例:〇△建設(株))
担当	下水道台帳作成業者の担当者名を記入する
市監督者	下水道工事における市担当者名を記入する (市発注の工事のみ記入。開発等工事、下水道法第16条工事、委託の場合は記入不要)
図面枚数	同一工事内における図面の枚数を記入する (例:1枚の場合は、1/1、2枚の場合は、1/2もしくは、2/2と表示する。)
図面番号 (道路台帳番号)	水道・下水道・ガスマッピングシステムの図面番号(道路台帳番号)を記載する (例:116 5 E) ただし、1工事が大規模で複数の図面にまたがる場合、1工事において最も施工延長が長い図面番号(道路台帳番号)とする
整理番号	整理番号については、工事毎に図面管理部署が採番する
調書総括	-下水道本管及び下水道取付管- 本管,取付管それぞれについて,管種・管径別に分類し,台帳内に表示のある延長を集計して記入する (例:本管 VUφ 200(外径φ 216) 167.74m 取付管 VUφ 150 24.24m) -人孔- 構造別に分類し台帳内に表示のある数量を集計して記入する (例:1号組立 1、小口径(点検)マンホール(300)レジコン 7) -汚水樹- 構造別に分類し台帳内に表示のある数量を集計して記入する (例:塩ビ製汚水樹φ 200 12基) 本管及び人孔は上段に、取付管及び汚水樹は下段に記入する
位置図	位置図の縮尺は1/5000~1/10000とする また、閲覧者が位置を特定しやすい様に公共施設等の名称の入ったものを使用し、下水道本管理設部を明示し○印で囲む 位置図内に方位を表示する